

長寿院 薬師如来堂の建築解説

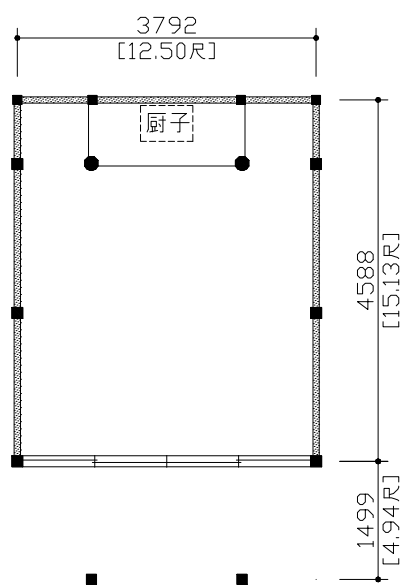
(所在地 群馬県みどり市笠懸町阿佐美2130)

山門を潜り、本堂に向かい参道を進むと、左側に建つのが、妻入りの入口を参道へ向ける薬師如来堂である。木造平家建て入母屋造り瓦葺きとし、妻側瓦屋根を向拝へ葺き下している。当院で保存する古写真を見ると、昭和25〜26年までは草葺きの寄棟の屋根を掛けていたことがわかる。内部を見ると、正面奥の奥行2尺6寸8分が柱と虹梁で境とした内陣になり、そこに木造の薬師如来像を納めた厨子を安置する。

「薬師さま」の呼称で厄除けの神として信仰を集める薬師如来堂の正式な名称は「竹沢薬師瑠璃光如来堂」という。十二日が縁日となり、とりわけ正月の十二日は賑わいを見せる。現在地に移される以前は、地区内の阿佐美村竹沢、萩原克己家の傍の畑にあった。縁日には多数の参詣者を集め、屋台店が出るほど賑わったという。長寿院境内へ移されたのが、江戸時代末期頃という。御堂を建立し、薬師尊を移したことを祝う和讃が伝わり、それが弘化四年(1

847年)末八月に詠まれた竹澤薬師和讃である。以上のことより、その後の屋根、外壁、室内の改修は見るものの、向拝や入口の虹梁に線刻する渦巻きや若葉模様などの建築的特徴、古写真に写る外観と竹澤薬師和讃から判断して薬師如来堂の建造されたのは江戸時代末期と考えれば妥当である。

(群文研幹事・金井淑幸)



薬師如来堂 復元平面図



薬師如来堂 古写真



薬師如来堂 外観